



3月園だより

令和7年3月1日

目黒区立祐天寺保育園 園長

今年度も最後の月となりました。あと少しで進級する子どもたちを見ていると、本当に成長を感じます。

先日は、乳児クラスでお楽しみ会がありました。保育士が目の前で行う人形劇に、1歳、2歳クラスの子どもたちが向ける眼差しのなんとも真剣なこと。0歳クラスでは最後の歌に合わせて全身を揺らし、数人がスタンディングオベーションです。乳児クラスの子どもたちが、こんな風に楽しさを共感できるようになった姿をとて微笑ましくうれしく思いました。幼児クラスでは、3クラスみんなでカレーライス作りをしました。大好きなカレーを自分たちで作るとあってどの子も数日前から楽しみで仕方ない様子です。ホールに集まり、3歳クラスが玉ねぎの皮をむき、4歳クラスがピーラーで野菜の皮をむき、5歳クラスが包丁で切ります。その後、栄養士が目の前で炒めや煮込みを見せてくれました。子どもたちとの会話からジャガイモがとろけているのと、形を残している物の2通りを、鍋を分けて作ることになりました。出来上がった2種類のカレーは、お皿にご飯を挟んで盛り付けられました。5歳クラスのエスコートで席につき、みんなで食べ比べてはカレー談義です。“みんなで作ったからこそおいしいね”と言わんばかりの満面の笑顔が並んでいました。

余談ですが、後日3歳クラスに行くと、おままごとをしていた子が「園長先生、みんながお腹痛くならないか食べて」とお手玉に乗ったお皿を差し出しました。そういえばカレー作りの時、一番に園長が味見をする様子を、羨望の眼差しで見ていた子どもたちに、検食の意味を説明したのです。意味合いをしっかりと理解して、遊びにまで楽しく展開する発想力が本当に素敵です。楽しみながら進級への期待を膨らませていきたいと思います。



行事予定

卒園式 5歳児クラス親子
お別れ遠足（3.4.5歳児）
お別れ遠足（5歳児クラス）
お別れ会
避難訓練、身体計測

クラス移動日のお知らせ

新クラスへの移動する準備を行います。詳細は後日お知らせいたします。

卒園制作の取り組み

園庭で使っているベンチのペンキが剥げて汚れていることに気づき「きれいにしたい」と子どもたちから声があがりました。「どうやってきれいにしたらいいかな」と子どもたちが考え迷っていたので、保育士がペンキの存在を知らせると「ペンキで色を塗って絵を描いたら、保育園の皆も喜んでくれる」と意見がまとまり、卒園制作の作品にすることにしました。「何を描こう」と友達と相談し、他クラスの友達が喜んでくれる姿を想像しながら楽しそうに制作していました。卒園式後に園庭でお披露目する予定です。また、2月から午睡が無くなりました。夕方になると眠そうな様子も見られたので、昼の時間に「寝てもいいよ」と声をかけても「小学生になるための練習だから」と言って起きています。「小学生」が魔法の言葉になっているようです。「もうすぐ小学生だからできるよ」と様々なことに挑戦しようとする気持ちが高まっています。



1年間の成長した子どもたちの様子

0歳・ちゅうりっぷぐみ

布団に寝かせた人形をトントンしたり、「ごはんだよ」というように起こしてあげて、抱っこしながら人形の口元にコップを傾けて飲み物を飲ませてあげたりしています。そして、今度は同じように食べ物を運んであげると「(おい) ー」と笑顔で語りかけています。身近な生活場面の模倣遊びを楽しむ姿が増えて、一人ひとりが好きな遊びを繰り返し楽しんでいます。

少しずつ言葉だけではなく互いに視線や身振り、声などで関わろうとする姿に1年の成長を感じています。



2歳・ひまわりぐみ

散歩先で見つけた飛び出した根っこを大きなかぶに見立てて友達とつながって引き抜こうとしたり、追いかけてこの中でも「とんとんとん、おかあさんですよ、あけて」の言葉に対して、「あしをみせて」「おおかみだからだめ」など答えています。オオカミ側も「おとうさんですよ」「おにもつですよ」とアレンジも入れながらやりとりしています。簡単な繰り返しのある絵本の「おおきなかぶ」や「おおかみと7ひきのこやぎ」、「3ひきのがらがらどん」などを遊びの中で再現して楽しんでいます。イメージの違いなどもありますが、友達とやり取りをしながら一緒に物語の世界を楽しむ姿が増えてきました。

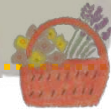
4歳・うさぎぐみ

戸外に出ると「何の鬼ごっこする?」「氷鬼にしようよ」と意見を出し合っています。遊びが決まると今度は「鬼決めするから集合してー」と誰かが言い「集合だってー」とお互いに声を掛け合って集まり、鬼決めをします。靴の先をそろえて「おにきめおにきめおにじゃないよ・・・」と抜けていく方法が今の流行です。ふと気が付けば、保育士と一緒に遊ばなくても、子どもたちでルールを確認して遊びをスタートする事がほとんどになりました。保育士が遊びを先導しすぎないように自由に発想して遊んできた事で、様々な場面で自分で考えようとする姿に成長してきた子どもたちです。



1歳・たんぽぽぐみ

一人の子が帽子をかぶり、カバンを持ってお出かけに行こうとすると、他の子が“自分も”と同じ格好をし始めます。動物園に行くとのことで、保育士がバスに見立てた長ベンチを用意すると、次々に同じ格好をする子が増え、4・5人で動物園へのお出かけを楽しみました。このように、友達と同じことをしたいという思いが育ち、保育士と一緒に遊ぶ中で友達との関わりを楽しむ姿が増えました。自己主張の高まりとともに場所や玩具の取り合いも増えてきましたが、関わりながら遊び中で楽しい気持ちを共有するかのようにお互いに笑顔になっています。



3歳・りすぐみ

ある日、室内で2人の子が玩具の取り合いでけんかをし、2人とも泣いたり怒ったりと感情を出し合っています。見ていた子が「泣かないで」「どうしたの?」と頭を撫でていたので、状況を話し、「どうすれば仲直りできるかな」と周りの子に聞くと、「一緒に使ったら?」「じゃんけんしたら?」などの言葉がありました。結局どの提案も「やだ」と解決には至りませんでした。大好きな友達を想う気持ちが言葉から伝わります。ケンカした2人は戸外に出ると自然とくっつき合い「フフフ」と一緒に遊んでいました。この1年たくさん遊んでけんかもしながら友達との関係がぐっと深まってきています。



5歳・きりんぐみ

遊びの中でたくさんの研究と発見をした一年間でした。砂と水を混ぜると温度は変わるのか、どうやったら壊れない筏ができるか、稲にネットを張ったのになぜお米が少ししか収穫できなかったかなど、考えたり試したりする中で学ぶことができました。友達と一緒に研究や失敗を繰り返してきたことで今では子どもたちが自発的に「なんでだろう」「こうかな」と疑問を持って考えるようになり、発見したことを友達と共有するようになっています。これからの小学校生活でも様々なことに対して知的な好奇心を持って過ごしてほしいです。